

方面	八丈島における災害派遣	(1面)
1師団	国内射撃競技会師団選考会	(2面)
12旅団	旅団訓練検閲	(3面)
1施設団	団訓練検閲	(4面)
関東補処	部外講師による教育	(4面)
東混団	各種教育	(5面)



令和7年11月25日 第1090号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「一隅を照らせ」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

台風22・23号

八丈島における災害派遣活動

第1師団生活支援隊による給水・給食・加水入浴支援

令和7年台風第22号の接近に伴い、東京都八丈町（八丈島）では通信障害等が発生するとともに浄水設備が損傷し、医療機関で使用する透析用水の不足が懸念された。この状況を受け、10月9日、官庁間協力により方面隊及び航空自衛隊航空支援集団をもって通信事業者等を輸送し、同日21時13分、東京都知事から海上自衛隊横須賀地方総監に対して給水車等の輸送支援に係る災害派遣要請が発出された。さらに台風23号の接近に伴い、さらなる被害拡大の恐れがあったため、11月12日4時、第1師団に対しても生活必需品及び支援物資の輸送に関する派遣要請が行われ、同時刻これを受理した。

方面隊は直ちに態勢を確立するため、10月9日に東京都庁に師団から2人の連絡員を派遣し、情報収集を行った。台風23号接近前の11日には、八丈町役場に師団司令部及び第1後方支援隊から計17人の連絡員等を派遣し、現地対策本部や自治体との調整を通じて、円滑な活動統制及び情報共有を実施し、14日には東京都港区で準備された組立式仮設給水槽2基および1後方支援隊の水タンク車1両、師団司令部隊の小型2両及び支援物資等を入間基地へ輸送し、同日、再びC-2輸送機により八丈島へ空輸した。現地到着後、生活支援隊（隊長・1後方支援隊長 後川1佐）は、直ちに給水活動を開始し、地域住民の生活を支える重要な水資源の確保の要請に基づき、1日約1000食規模の給食支援を開始した。限られた資材と人員の中で効率的な炊事体制を構築し、被災住民へ温食を提供した。

18日には、第12旅団の第12ヘリコプター1隊（相馬原）がCH-47Jを運用し、1後方支援隊が準備した入浴支援セットの一部を八丈町へ空輸した。町営温泉施設「ふれあいの湯」の設備と自衛隊の入浴設備を組み合わせることで、初の温泉施設連携型の「加水入浴支援」を実施した。この取り組みは、災害対応における新たなモデルケースとなった。今回の派遣活動では、輸送経路が海路及び空路に限定される離島特有の環境下において、物資集積から輸送、現地配分に至る一連の調整に大きな難しさがあった。また気象条件の急変や通信環境の制約も加わり、現地支援態勢の確立には高い即応性と柔軟な判断が求められた。この経験を通過して方面隊は、離島災害における初動対応や連携調整の課題を明確化し、今後の対応能力向上に資する多くの教訓を得た。

11月14日、東京都知事から撤収要請があり、活動を終了した。

※温泉施設連携型の「加水入浴支援」とは町営温泉施設ふれあいの湯の源泉は約58℃と高温のため、そのままでは入浴が困難であった。このため、自衛隊が輸送した水をポンプで加水し、適温に調整して運用した。また、施設内のシャワー設備が使用できなかったことから、洗体のためのくみ湯を確保する目的で、入浴支援セットの浴槽を設置し、衛生的な入浴環境を整えた。



空自C-2輸送機により空輸された水タンク車



第12ヘリコプター隊のCH-47Jから入浴セットの卸下を行う1後支連



源泉を活用した加水入浴支援



町営温泉施設「ふれあいの湯」



海上保安庁艦艇からの取水



給水車と連携した給水活動



活動を終え多くの島民から見送られる隊員



給食支援

首都機能防護に万全を期す 都営地下鉄で化学剤対処の協同訓練を実施



師団は10月11日、都営大江戸線都庁前駅において、第1特殊武器防護隊を主力とし、第1後方支援連隊及び第126地区警務隊が参加のもと、関係各機関との化学剤対処に係る協同訓練を実施した。本訓練は首都機能の維持において極めて重要な都営地下鉄を対象に、不審な液体が入った瓶が同時多発的に複数駅で発見され、多数の乗客にけいれん等の症状が発生、電車が各駅で緊急停車しているという事態を想定して実施された。現場では1特防が主導し、駅構内の複雑な構造に応じた化学剤汚染地域の検知・検査・除染を第126地区警務隊及び関係機関と緊密に連携して実施した。(写真)

同時に1後支連が傷病者の応急救護活動を行い、消防との協同体制の下、迅速な救護・搬送要領の確認を行った。本訓練を通じ、師団は実際の地下鉄施設を活用した実践的な事態対処要領の検証を行うとともに、関係部隊及び関係機関との連携・調整要領の確立を図り、所望の訓練目的を十分に達成した。

師団は今後も各関係機関との協働体制を一層強化し、あらゆる脅威に対して迅速かつ的確に対応できるように、首都防衛の部隊として抑止力と即応力の強化に努めていく方針である。

第1師団

陸白の頂を目指して

国内射撃競技会師団選考会を実施

師団は9月13日から20日までの間、東富士演習場の小火力戦闘射撃場及び北富士演習場C射撃場において、令和7年度国内における射撃競技会(方面選考会)に向けた国内射撃競技会師団選考会を実施した。

本選考会は、各部隊及び選考員の小火力射撃練習を二層向上させるとともに、首都防衛を担う師団

の中で、各隊員が日頃の訓練成果を遺憾なく発揮し、精密射撃と連携動作における高度な練度を競



部隊の誇りをかけて(分隊戦闘射撃の部)



個人の名誉をかけて(個人射撃の部)

い合った。

競技は「分隊戦闘射撃の部」(普通科職種)と「個人射撃の部」(普通科職種以外)に区分して実施された。

分隊戦闘射撃の部では、師団の各普通科連隊から

3個分隊ずつ、計9個分隊が参加して実施された。各分隊は、目標捕捉から射撃、移動、再配置に至るまで一連の分隊戦闘行動を精密に実施し、射撃精度・連携・指揮統制の総合力が評価された。その結果、上位6個分隊が師団代表、うち下位3個分隊が補欠として指定された。

また個人射撃の部では、普通科を除く師団各部隊から選抜された23人の隊員が参加して実施された。

各射手は射撃姿勢・呼吸制御・照準安定などの基本動作を徹底し、得点は極めて僅差の中で競い合った。上位13人が師団指定選手に、うち下位10人が補欠として指定された。

さらに6月15日から9月26日までの間に実施された令和7年度集合教育「狙撃」を履修した狙撃組から、個人射撃(狙撃)の部に各部隊2組が

選抜された。本選考会及び集合教育を通じて、隊員らは改めて小火力射撃技能の基本・基礎の重要性を再認識するとともに、日頃の訓練成果を確認する貴重な機会となった。

競技を通じて得られた教訓や技術は、各部隊に普及され、今後の練度向上及び師団全体の精進に資することが期待される。

師団代表に選出された分隊、個人射手及び狙撃組は、令和7年度国内における射撃競技会(方面選考会)に向け、更なる技量の研さんと連携強化に努め、陸上自衛隊の頂点を目指して挑戦を続ける。

【師団代表部隊・隊員】

〈分隊戦闘射撃の部〉

・第32普通科連隊 第5中隊

・第1普通科連隊 第5中隊

・第1普通科連隊 第5中隊

- ・第34普通科連隊 繁田曹長・根岸1曹
- 第2中隊
 - 第1普通科連隊(2組) 宮北1曹・西脇3曹
 - 第32普通科連隊(1組) 谷口2曹・湯澤3曹
 - 第32普通科連隊(2組) 強矢2曹・神2曹
- ・第1偵察戦闘大隊 坂井3曹
- ・第1飛行隊 坂田3曹
- 船山曹長
- 〈個人射撃(狙撃)の部〉
- 第1普通科連隊(2組) 田中2曹・丸山2曹
- 第34普通科連隊(2組) 岩崎3曹・臂3曹
- 第1普通科連隊(1組)

空と地の連携で即応力向上

東富士で空路潜入・緊急離脱訓練を実施



10月8日から9日までの間、東富士演習場市街地訓練場において実施された航空科職種合同訓練に、師団から第1飛行隊が参加し、第1普通科連隊と協同して空路潜入及び緊急離脱訓練を実施した。(写真)

訓練では地上部隊の煙幕によって隠蔽された市街地訓練場上空において多目的ヘリコプター(UH-1)が低空で進入し、1普通連が素早く展開した。1普通連の現地での任務完了後は、緊急離脱要領に従って再び屋上に飛来降着した機上へと移動する一連の行動を繰り返し要領を確認した。

1飛のパイロットは、変化する気象や地形条件に即応しながら安全かつ精密な飛行を維持し、一方で1普通連隊員は、限られた時間内で迅速な降着・離脱を行うことにより、双方の練度と信頼関係を実動の中でさらに高めた。今回の訓練を通じて両部隊は、10月下旬に控える師団訓練検閲に向けた現場での判断力・統制力を磨くとともに、空地一体となった行動の重要性を再確認した。

星降る島に響く旋律

神津島で心温まる夜空の演奏



師団は9月18日、神津島観光協会が主催する「星空フェスタ2025」に第1音楽隊を派遣し、神津島空港において屋外演奏を実施した。

当日は5人の音楽隊員によるアンサンブル形式での演奏が行われ、約300人が集まった。満天の星空の下「スタジオリブ」や「ディズニー」などの星にまつわる名曲の数々が穏やかに響き渡り、訪れた人々を幻想的な世界へと誘った。島の澄んだ空気が音楽の調べが共鳴し、聴衆の笑顔が夜空に浮かぶ星々とともに輝いた。

演奏終了後には多くの住民から温かい拍手と感謝の言葉が寄せられ島民と隊員との絆が一層深まった。

師団は今後も地域行事などへの協力の一環として行う、音楽隊の派遣演奏、自衛隊の活動や装備品等の紹介を通じて交流と親和を深め、離島を含む地域との信頼関係の強化に努めていく。

平和への誓いを胸に

千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭

師団は10月17日に行われた令和7年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭において、第1普通科連隊を基幹とする部隊参列および部隊拝礼を実施した。(写真)

慰霊祭はご遺族をはじめ、秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えし、政府高官、各国駐日大使・駐在武官、統合幕僚長、陸・海・空各幕僚長など多くの関係者が参列のもと、厳粛に執り行われた。

陸・海・空自衛隊合同部隊として参列した30名の隊員は、航空自衛隊音楽隊による「国の鎮め」の演奏の中、先の大戦で尊い命を捧げ、今日の平和の礎となられた戦没者に対し、鎮魂の捧げ銃を行い、静粛にその使命を果たした参列した隊員からは「先の大戦で亡くなられた全ての戦没者への追悼の誠を示すために臨んだ」「今の平和を築かれた方々への感謝の気持ちに胸に、心を込めて捧げ銃を行った」などの声が聞かれ、それぞれが深い哀悼の意をもって式典に臨んだ様子がうかがえた。

師団は、先人たちの尊い犠牲の上に築かれた平和の意義を胸に刻み、引き続き国民の安心と安全のために、その責務を全うしていく。



第12旅団

新領域への対処

4個部隊の訓練練度を評価

旅団は9月28日から10月3日までの間、関山演習場及び相馬原演習場において第2普通科連隊、第12高射特科隊、第12施設隊及び第12通信隊の4個部隊を受閲部隊とし、令和7年度第2次旅団訓練検閲及び空中機動訓練を行った。

本訓練検閲は「攻撃における各職種部隊の行動を評価する」ものであり、掲げ、訓練成果を評価し、その進歩向上を促した。

また本訓練検閲の場において旅団空中機動訓練を併せて実施し、ヘリボン作戦の一連の行動を演練するとともに、空中機動における綿密な準備・条件作爲に向けた幕僚活動及び隷下部隊の諸職種協同に係る識能の向上を図った。

2普通科は旅団の諸職種協同の基幹部隊として攻撃を演練し、情報と火力の連携及び空中機動を伴う攻撃戦術を実施した。

12高射は自隊のみならず他職種の対空火器を含めて対空防護力を組織化する」とともに、対空作戦幕僚として、適時適切に旅団の対空戦闘統制を実施した。

12施設は他部隊と連携した障害処理、応急築城、交通作業及び他職種の施設部隊を含めた運用統制を実施した。

12通信は旅団システム通信組織を構成・維持・運営し、戦況の推移に応じたシステム通信に係る統制を実施した。

その他各部隊は、UAVやドローンへの対処の他、敵偵察衛星の対処、サイバー攻撃・電子戦への対処等、新領域を含む実践的な環境下での行動を行った。

訓練検閲中は寒暖の差もあり、体調管理が難しい状況であったが、各部隊は練成成果を遺憾なく発揮して任務を完遂し、本訓練検閲を終了した。



07式機動橋の展開 (12施)



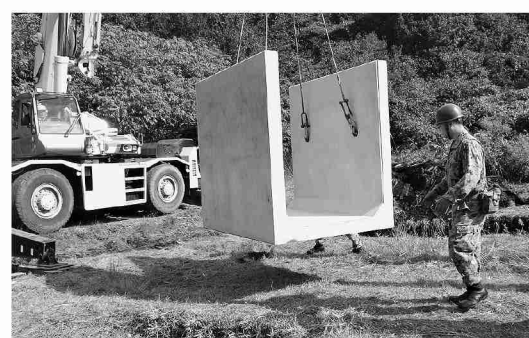
ヘリボン作戦で目標奪取 (2普連)



有線構成 (12通)



近SAM機外搭載 (12高)



手りゅう弾投てき場作業



溜柵強化作業



安全係による指導

訓練基盤の新たな構想 演習場整備を実施

旅団は10月8日から17日までの間、相馬原、関山及び大日原演習場において、令和7年度方面隊秋季演習場定期整備を行った。定期整備実施にあたり旅団長は「作戦としての行動の実践」安全かつ効率的・効果的な整備の推進」を要望事項に掲げ、副旅団長を関山整備隊長、第12施設隊長を相

馬原整備隊長、第30普通科連隊長を大日原整備隊長に任命し、任務遂行能力向上のための基盤整備及び演習場の維持管理整備を実施するとともに、作戦としての行動能力の実践により、指揮の要訣、幕僚活動、部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作の向上を図った。整備に先立ち、チェーンソーや

草刈り機等の施設器材の取扱い教育を行い、安全管理に万全を期した。また整備期間中、衛生隊が巡回指導を実施し、感染予防等に努め、作業環境の安全及び衛生的な作業環境の確保に務めた。

演習場整備は訓練部隊の運用構想に基づき、演習場の機能維持向上を整備項目として実施した。相馬原演習場では、E地区の緊要地形整備、爆破訓練場の改修及び手りゅう弾投てき場の整備を実施し、関山演習場では、

各担当部隊は情報通信技術や民生品等の民間技術を積極的に取り入れ、演習場整備の効率的な実施を図った。

12ヘリ

霞ヶ浦で離着水訓練 緊急時の水上操作能力を向上



水上滑走中のCH-47



霞ヶ浦から離水するCH-47

第12ヘリコプター隊第2飛行隊は9月16日、霞ヶ浦離着水訓練場においてCH-47の離着水訓練を実施した。

本訓練では操縦士の緊急時における水上操作能力及び水上ホバリング能力を図るとともに、整備員の訓練実施後の特別点検における整備能力の向上を図った。

相馬原飛行場を飛び立ってCH-47は、霞ヶ浦から離水する。機内からは滑走中に流入した湖水が滴のように排水され、ヘリコプターのダウンウォッシュによる波紋が湖面に美しく広がっていた。

12ヘリは空中機動性を強化した旅団の航空部隊として、いかなる状況においても任務を完遂する能力を培うため、引き続き訓練にまい進していく。

ホバリングに移行して徐々に高度を下げ、霞ヶ浦の湖面に着水した。機体はゆっくりとした速度で水上滑走をした後、ローターの出力を上げ再び上空へ離水。機内からは滑走中に流入した湖水が滴のように排水され、ヘリコプターのダウンウォッシュによる波紋が湖面に美しく広がっていた。

12音 みんなの防災フェスタin長岡 来場者を魅了した演奏



多彩な演奏で観客を魅了する音楽隊員

第12音楽隊は9月27日、新潟県長岡市ハイブ長岡において、テレビ新潟が主催するみんなの防災フェスタin長岡のイベント派遣演奏を実施した。屋内会場のステージでは、12音が演奏を行い老若男女が楽しめる6曲が選曲され、DaICEの「I Wonder」では、男性ヴォーカル2人の歌声が会場に響いた。演奏終了後は拍手に迎え、アンコール曲として竹内まりやの「September」が披露され、観客から拍手が起るなど会場全体が一つとなった。

第1施設団

団訓練検閲を実施

首都防衛における施設支援の実効性の向上

施設団は9月18日から26日までの間、各部隊所駐屯地及び東富士演習場等において令和7年度団訓練検閲を実施した。本検閲は統裁官を第1施設団長が務め、隷下部隊の第4施設群、第307

施設隊及び第101施設器材隊に対して、首都防衛における施設支援の優先順位決定に係る検証、部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作の評価等を実施して、首都防衛における施設支援の実行性向上の資とすることを目的として実施された。

通常の検閲では、受閲部隊に課題等により検閲の課目を指示するが、今回の検閲は検閲開始までの対抗部隊のミサイル着弾に伴い大きな被害が発生し、その復旧等に係る13個の任務をさらに付与し、計31個の任務を付与した。

各指揮官は、指揮下部隊の特性や隊力を把握しながら、偵察・支援の優先順位等について状況判断した後、各部隊を指揮するとともに、路盤復旧や防護施設の構築など、施設力を最大限発揮し、ほぼ全ての任務を達成し



防護施設の構築



路盤の復旧

訓練想定として、当初対抗部隊からのミサイル攻撃の兆候等を状況付与し、状況として首都防衛に係る多種多様な任務を22日に18個付与した。24日対抗部隊のミサイル着弾に伴い大きな被害が発生し、その復旧等に係る13個の任務をさらに付与し、計31個の任務を付与した。

各指揮官は、指揮下部隊の特性や隊力を把握しながら、偵察・支援の優先順位等について状況判断した後、各部隊を指揮するとともに、路盤復旧や防護施設の構築など、施設力を最大限発揮し、ほぼ全ての任務を達成し

東ティモール能力構築支援

両国の交流深める



施設団は8月4日から9月26日までの間、東ティモール共和国においてイモール構築支援を実施した。

本支援は東ティモール国防軍後方支援隊に協力し、道路構築及び施設機械整備教育を実施して、同軍の施設作業及び整備に

係る識能を向上させるとともに、参加各国軍種間の連携強化を目的として実施された。

派遣部隊は団隷下部隊の第307施設隊が基幹となり、第306施設隊、第1師団（通訳）、東部方面後方支援隊の支援を受けた。

約2カ月の中で東ティモール国防軍に対し、道路構築における各個訓練の指導要領の教育、排水及び法面保護設備に関する教育実習を実施するとともに、施設機械整備として予防整備、故障探求

24日には方面総監が訓練視察に訪れ、各種訓練等の状況を確認された。

検閲終了後の10月2日及び3日の2日間、受閲部隊の全隊員に対し、検閲統裁部は意見交換会を実施した。意見交換会では、今回特に重要視されていた優先順位に関する事項について意見を交わすとともに、陸上自衛隊、施設科部隊にどのようなことが求められているのか話し合われた。

また10月17日には団最優先上級曹長等による検閲成果報告が実施され、検閲に係る問題点や良好な事項等について報告・討議された。

施設団は今後も方面施設科の骨幹部隊であることを深く認識し、首都防衛における施設支援の実効性を向上させていく。



団最優先による成果報告

施設団は9月16日古河駐屯地において、農林水産大臣から令和6年10月高病原性鳥インフルエンザのまん延を防止するため防疫措置の実施に尽力した功績をたたえられ、感謝状を受賞した。

受賞した第1施設団長は、駐屯地の基盤を支えてくれた隊員も含め全ての隊員に感謝すると述べた。

施設団は引き続き各種災害派遣等任務に迅速に対応していく。

農林水産大臣より感謝状受賞

災害派遣の功績称えられる



農水省職員との記念撮影

施設団は9月24日、霞ヶ浦駐屯地において部外講師によるハラスメント教育を実施した。

根絶に向けた施策で、管理者クラスがハラスメントを行わないことはもちろん、日頃から隊員相互にコミュニケーションを密にし、良好な人間関係を築き、ハラスメントの予防を心掛けることが重要であることを再認識した。

引き続き関東処は、隊員とのコミュニケーションを積極的に図り、職場の風通しを良好にし、ハラスメント根絶を目標に意識改革を行っていく。

関東補給処

良好な職場環境の構築へ

部外講師によるハラスメント教育

関東処は9月24日、霞ヶ浦駐屯地において部外講師によるハラスメント教育を実施した。

本教育はハラスメントを許さない組織風土を根付かせる素地を確立させるとともに、良好な職場環境の構築及び適切なサービス指導の資とする目的として行われた。

本教育では、話し手から聞き手への伝わり方の確認をロールプレイング方式



ロールプレイングの様子

本教育では、話し手から聞き手への伝わり方の確認をロールプレイング方式

本教育では、話し手から聞き手への伝わり方の確認をロールプレイング方式

仮想空間でリアルに体験

民間技術で車両事故防止へ



関東処化学部及び富士燃料出張所は10月6日から10日までの間、霞ヶ浦駐屯地及び駒門駐屯地に民間技術（VR）を活用した官用車両事故防止施策の検証を行った。

本施策は東方総監部が実施する民間技術（VR）を活用した官用車両事故防止施策に参加して、その効果を検証し、事故の未然防止に資することが目的である。

関東処は引き続き、事故防止施策の検証を実施するとともに、官用車両事故の未然防止を徹底する。

基本基礎の確立 新隊員戦力化訓練



関東処火器車両部及び誘導武器部は10月15日から21日までの間、土浦駐屯地において、武器教導隊が計画した新隊員戦力化訓練に参加した。

本訓練は野外行動で必要な資質及び識能を習得させ、早期戦力加入の資を授けることを目的として行われた。

終日、小型トラック及び軽装甲機動車を展示し、地域住民との交流を図り、駐屯地の理解と信頼を深めてもらうことを目的としている。

地元のまつりを支援

関東処は10月19日に土浦市右初小学校にて行われた「2025みぎもみまつり」を支援した。

本支援は右初商工振興会が実施する「2025みぎもみまつり」を支援し、地域住民との交流を図り、駐屯地の理解と信頼を深めてもらうことを目的としている。

終日、小型トラック及び軽装甲機動車を展示し、地域住民との交流を図り、駐屯地の理解と信頼を深めてもらうことを目的としている。



格闘展示をする隊員

格闘展示をする隊員

駐屯地公式ホームページ
https://www.mod.go.jp/gsd/eae/eadep

X(旧ツイッター) フォロワー募集中!!

陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地公式
Camp Kasumigaura

東部方面混成団

各種教育全力推進中 隊員の故郷117教育大隊

117教育大隊では現在、各種課程教育が精力的に実施されており、教育の拠点である武山駐屯地は活気に満ち溢れている。

同大隊には4個の共通教育中隊が所在しており、現在実施中の第25期一般陸曹候補生及び第28期自衛官候補生の教育を

第327中隊が担当している。大隊は年間を通じて教育を行う体制を整えているが、9月以降に入隊するこの時期の新隊員は「平月入隊」とも呼ばれており、年代によって「季節隊員」という呼称で馴染みのある人もい

るだろう。また同時期に実施中の第2期技術陸曹課程は第331中隊が担任し、定められた資格や免許を持つ人又は隊員を採用し、一般的に必要な基礎的な知識及び技能を修得させ、その後部隊に配置して、技術分野における人的戦闘力の充実に寄与している。また第17期最先任上級曹長課程(CSM課程)は第339中隊が担任し、連・大隊等以上の部隊の最先任上級曹長となる人材を育成するための課程教育を実施している。さらに、予備自衛官補の教育も326・331・339中隊で担任しており、将来の予備自衛官を育成している。各課程教育の現場では、基礎動作や射撃、体力錬成や各課程教育に合わせた戦闘訓練等について、指導陣が豊富な経験



入隊式に臨む平月新隊員



歩哨訓練を行う予備自衛官補



うんていに挑む陸曹候補生

女教隊は現在、9月に終了した第107期に続き、本年度2期目の第108期一般陸曹候補生課程を担当しており、若

駆け抜け突破せよ 陸曹候補生障害走に挑む

手陸曹の育成に熱意をもって取り組んでいる。同課程教育においては障害通過走が実施され、隊員の体力及び気力の向



C S M課程において真剣に座学を受ける隊員



防護マスクの8秒装面を行う技術陸曹

上、ならびに各種障害の通過要領を修得するための教育が行われた。今回の訓練では、隊員が網登り、うんてい、囲壁の超越、低鉄条網の通過など、数々の障害を乗り越えながら自らの限界に挑戦。仲間と声を掛け合いながら最後まで全力で駆け抜ける姿が印象的であった。

彼女らは教官や助教の激励の声が飛び交う中、一人ひとりが汗と土にまみれながら課題をやり遂げた。
(写真は第107期)

混成団ではさらなる認知の拡大と募集対象の若年層に向け、新たにインスタグラムを開設しました！

Xは混成団・31普連・48普連、インスタグラムは混成団・31普連の計5個のアカウントにて各種活動状況の紹介・発信を行っています。是非フォローし、各部隊・隊員の活動をご覧ください！

広報コラム SNSで見える混成団の姿

東部方面混成団 公式Xはこちら！
陸上自衛隊【東部方面混成団】公式 @EACB_takeyama
たくさんのフォローお待ちしております！

東混団・31普連 インスタ始めました！
フォローお待ちしております！



観閲台真横から観閲行進を観覧



観閲行進の一番最初を飾った地本車両

総監部人事部募集課 募集ニュース

富士学校開校記念行事 総合予行を募集対象者が見学

方面隊は10月4日・5日の両日、富士学校開校・富士駐屯地開設71周年記念行事の場を活用し、陸自の威容や精強性を理解させるとともに、職種の魅力を伝え、職業選択肢の一つとしての認知や、募集対象者の志願化と入隊率の向上を狙いとした募集活動を実施した。

特に、4日の総合予行では募集対象者(東方210人、中方14人)を招待し、記念式典において、メインステージ席に案内し、部隊の威容を体感させ、訓練展示においては、職種ごとの装備品の進入、機能・運用の紹介に引き続き、シナリオに沿った迫力のある訓練展示を間近で見学させた。

訓練展示終了後の装備品展示においては職種説明を合わせて実施し、職種の魅力を理解させるとともに、学校に隣接した演習場域では募集対象者専用の戦車試乗を行う等、地本、富士学校が連携して募集対象者ファーストの募集広報活動を実施し、ここでしか見られない・知れない・体感できない自衛隊の魅力が募集対象者に訴求することができた。



隊員による丁寧な装備品説明



装備品展示



戦車試乗



装備品の説明

CTS AOC教育に最大限寄与 ICEを活用し審判



統裁支援をするCTS隊員

東部方面指揮所訓練支隊は8月20日から29日までの間、富士学校が実施した幹部上級課程(以下「ICE」)合同兵棋演習を支援した。本演習は指揮所訓練統裁支援サーブ(以下「ICE」)を活用して審判を実施し、AOC学生に対する各級部隊の指揮・幕僚活動及び諸職種協同に関する事項について習得させることを目的として実施した。

主要教育項目は指揮・幕僚活動として「任務・地位・役割を理解し、戦況の推移を予測した各級指揮官の適時適切な状況判断及び決心」「各級指揮官の状況判断等を適時適切に補佐する幕僚活動」諸職種協同として「戦闘

力の組織化のための諸職種機能の調整」とし、演習団及び演習団員の自由統裁による対抗演習により実施された。

隊は本演習の支援にあたり、統裁部と密接に連携し、準備間、ICEの操作実習及び初期入力支援を実施するとともに、訓練間、ICE入力要員が行うICEへの入力操作に関し、質問受付及び巡回指導による支援及びICEの稼働状態を常時監視し、不具合の発生を予防する等、教育目的の達成に最大限寄与した。

隊は引き続きICEを活用した訓練の二一スに最大限応えつつ、訓練支援の質的向上を図る。

後支隊 陸曹候補生が履修前教育 富士で識能を磨く



総合訓練において地雷原を突破する隊員



隊員を善導する助教



担任官による精神教育

東部方面後方支援隊は8月25日から9月5日の間、富士駐屯地において、第148期・第108期(女性自衛官)陸曹候補生並びに一般陸曹候補生課程履修予定者16人に対し、令和7年度第1回陸曹候補生課程履修前教育を実施した。

本教育は富士教育直接支援大隊が担任し、大隊

の最先任上級曹長を教育隊長として指導部を編成して、陸曹候補生として必要な識能の向上及び資質の醸成を目的に、精神教育、学科教育及び野外訓練が実施された。

教育の中盤には障害走・戦闘訓練、訓練指導法などの最先任上級曹長を教育隊長として指導部を編成して、陸曹候補生は互いに切磋琢磨し、一致団結して、困難な課題を克服し、日々の訓練を通じて、識能の向上を図るとともに、同期の絆を深めていった。

総合訓練では東富士演習場において前衛班の行動、徒步行進間の警戒及び分隊の攻撃等について演練し、これまでの教育で習得した識能を遺憾なく発揮して任務を完遂し、陸曹候補生課程に入校するための基礎を確立した。

本教育で培った知識と技能を今後の陸曹候補生課程において十分に発揮し、将来、後方支援隊の中核を担う陸曹としての活躍に期待する。

シ通群 新隊員後期教育を修了 それぞれの部隊へ旅立つ



旅立つ同期の見送り

東部方面システム通信(日)までの間、朝霞駐屯地及び一般陸曹候補生課程後期教育を実施した。本教育は陸上総隊及び東部方面隊隷下の8個部隊より選抜された29人を教官・助教要員として招集し、新隊員に必要な専門的な知識・識能を習得させるための教育基盤を万全にし教育に臨んだ。

教育は、まず座学教育において、システム通信関係法規・システム通信に関する基礎知識を付与し、次いで野外訓練においてはアンテナ建柱・有線構成・アクセスノード

の開設等を実施し、システム通信科隊員として必要な基礎的識能を習得させた。

駐屯地を巣立っていく新隊員から「システム通信科を希望して良かった」「シ通群で教育を受けられて良かった」「ユーモア溢れる班長に恵まれて良かった」等の言葉を数多く聞くことができ、教官・助教は新隊員の成長に喜びを噛み締め、希望を胸に新天地に立つ新隊員が引き続き共に汗を流した同期と互いに切磋琢磨し、本教育で培った人の繋がりを大事にシステム通信科の未来を担う隊員として活躍することを期待する。

会計隊 年度末業務に向けた 会計科支援を実施中



会計科支援を実施する隊員

東部方面会計隊は方面隊唯一の会計活動に任ずる部隊としての使命を自覚し、防衛予算が増額される中、「あらゆる任務に即動し、これを継続し、完遂する」を方針とし、各駐屯地において年度末業務に向けた会計科支援を実施中である。

会計隊の業務には、契約・給与・旅費等がある。契約業務は隊務運営所を充足するため、各部隊の調達要求を受理・審査し、入札等を実施し、落札業者と契約を締結する。会計業務は企業や隊員個人に対して正確に支払を実施し、支払書類を整理して会計検査院に提出する。給与業務は人事院勧告による人件費の引き上げや各種手当の支

訓練所感

東部方面航空隊 本部付隊 小泉恭祐3等陸曹



通信訓練に参加して

私は平成25年に自衛隊に入隊し、東部方面航空隊本部付隊通信班に配属されました。そこで3曹に昇任、3年後に初めての異動で北部方面隊の部隊に異動しました。慣れ親しんだ原隊とは全く違う環境で初めは戸惑いしましたが、良き同僚、上司、先輩に助けられ、3年間、北方での経験を積み成長することができました。現在は原隊に戻り、忙しくも充実した毎日を送っています。

そんな私が原隊に戻ってから最初の通信訓練(東富士演習場)に参加することにしました。

訓練では組長として「資器材の見積り及び組員の運用」について検討するよう指示を受けました。転属する前とは全く異なる人員、北方とは違う装備品をどう運用すればいいのかと正直戸惑いしましたが、そこで私は経験豊富な先輩陸曹の助言や先輩の協力を得て、資器材を一つ一つ見積もり、各種作業の計画を立案、上司の承認を得て準備を行いました。

また事前訓練として駐屯地内において、タイヤチェーン装着訓練及びモテムを使った有線構成訓練等を実施し、準備に方向向上を目的とした集中野外訓練及び各種事態を想定した指揮幕僚活動訓練、有事会計業務に係る総合訓練を実施するとともに、持続走競技会や会計特長競技会も開催して、あらゆる任務に対応し得る会計隊を育成している。

東方会計隊で後期教育を担当した新隊員は、方面会計隊をはじめ補給処・富士学校に巣立ち、それ

給拡大に対応しつつ、部隊人事と連携して正確に隊員給与を支給する。旅費業務は出張又は異動に伴い発生する旅費等を支給するが、特に今年度は旅費法改正により、定額支給から上限付実費支給になる等、大きな変化があったため鋭意対応中である。

教育訓練においては部隊・個人の基本的野外能

全を期しました。訓練が始まり、演習場に到着すると、早速タイヤチェーンの装着訓練を始めました。経験の浅い若年隊員で練成した結果、思った以上に早くチェーンを装着することができ、事前訓練の成果だと感じました。

次に有線構成訓練を行いました。当初、道路横断の際、埋設を計画していましたが、しかし、現地に電柱や高い木がいくつもあったため架設に変更しました。

現場での要領変更や酷暑の中での作業ということもあり、有線構成にやや時間を要しましたが、組員の頑張りにより、不安全もなく構成することができました。そして、今回の訓練のために、さまざまな準備をしました。準備の大切さを改めて学んだ訓練でもありました。今回の訓練で学んだことを忘れることなく、これからの訓練及び職務に生かしていきたいと思っています。

それぞれの職場で会計活動にまい進中である。これから会計隊として最も多忙な年度末へ向かうが、各部隊の経費の状況を把握し、被支援部隊の作戦を基準とした積極的な会計支援を実施し、東方会計隊長の要望事項である「いきいきはつらつ」を胸に掲げ、方面会計隊一丸となって会計支援を実施していく。

静岡地本

富士山樹空の森で 自衛隊とのふれあい祭り開催



キャラクターが勢ぞろいした部隊紹介

自衛隊静岡地方協力本部のふれあい祭りに参加した。部は9月20日、富士山樹空の森(御殿場市)で開催された第11回自衛隊とふれあい祭りに参加した。当日はあいちの雨模様が降ったものの、家族連れなど約2300人が訪れた。静岡地本がVR体験やオリジナル缶バッジプレゼント、自衛官採用制度説明などを行ったほか、施設周辺に所在する陸自部隊による16式機動戦闘車、陸自救急車の展示、高機動車の体験試乗、自衛隊特製豚汁の無料配布、応急救護体験が行われた。ステージでは裾野市出身の歌手によるライブ、富士山樹空の森の演奏、第34普通科連隊ら3部隊による吹奏が行われ、会場が一体となって盛り上がった。また自衛隊や施設のマ

栃木地本

自治会で防災講話 地域防災力向上へ



自衛隊栃木地方協力本部治会において実施された。部真岡募集案内所は10月5日、芳賀町下原新町自治会において、防災講話および簡易担架の作成体験を実施した。この防災講話は自治会の呼びかけにより実施されたもので、子供を含む71人の住民が参加し、町内放送を合図に訓練が開始され、住民は徒歩で芳賀町工業管理センターまで避難移動を行った。センターでは真岡募集案内所の所長による防災講話が行われ、能登半島地震で自衛隊が実際に派遣された事例を挙げながら、発災時の初動対応について説明した。講話後に限られた

茨城地本

いばらき自衛隊EXPO2025 自衛隊とのふれあい祭り開催



狙撃用偽装網の説明

自衛隊茨城地方協力本部は9月23日、茨城地方本部で自衛隊いばらきEXPO2025を開催した。本イベントは自衛隊に対する理解の獲得及び親近感の醸成に貢献することを目的として、令和5年から野外出浴セット、第127地区警務隊からオートバイ及び1/2トトラック、空自第7航空団から基地防空用地対空誘導弾発射装置や空自第3高射隊から軽装甲機動車など、数多くの装備品が集まり来場者の注目を集めた。また隊員がらっぱを吹奏し、来場者が曲目を答える「らっぱクイズ」や、草木に隠れた隊員(狙撃隊)を探すイベントも実施された。来場者からは「本当の自衛隊の姿を知りたい」との声が上がり、自衛官の偽装能力に感銘を受けていた。茨城地本は今後も地域との交流を深め自衛隊に対する理解と親近感を向上し、志願目標の達成に邁進する。

や各マスコミキャラクターの愛らしい動きに観客の注目が集まった。静岡地本の「しずぽん」も参加し、沼津地域事務所自衛官扮する「ぬまぼん」とともに静岡地本の活動をPRした。

静岡地本は今後も市民とふれあう機会を活用し、自衛隊に対する理解促進を図っていく。

新潟地本

来て、見て、学ぼう みんなの防災フェア



自衛隊ブースを紹介する生中継

自衛隊新潟地方協力本部は9月27日、ハイブ長岡(長岡市)で開催された、みんなの防災フェアにおいて、第5施設群と広報活動を行うとともに、第12音楽隊のミニコンサートを支援した。秋晴れの下、2日間合わせて約1万7千人もの来場者が会場を訪れた。イベント主催者であるテレビ新潟で、自衛隊ブースを紹介する生中継が行われるなど終日賑わいを深めていく。

群馬地本

中学生に対する防災教室 災害を知り危機に備える



防災教育の様子

自衛隊群馬地方協力本部は9月5日、片品村立片品中学校において昨年に引き続き、防災教育を行った。群馬県は比較的災害が少ない県であるが、沼田地域事務所が担当する県北部は山間部のため、近年多発している災害の発生時はどのような行動をとることが最善であるか、日ごろからシミュレーションを行うことが大切かを考えていく。生徒の半数は防災マップの存在を知らず、「家に

埼玉地本

中学1年生に職業講話 仕事への理解深める



自衛隊の説明ブースの様子

自衛隊埼玉地方協力本部朝霞地域事務所は10月23日、川口市立根根中学校が主催した「職業人」の講話を聞く会に、広報官である藤野2空曹を講師として派遣した。本会の目的は、主にそれぞれの仕事のやりがいや内容を中学1年生に対し説明し、「身の周り」にある仕事への理解を深めることにある。自衛隊のほかに、警察や地元消防、近隣の一層の広報活動に尽力していく。

自衛隊の説明ブースでは、約70人の生徒が説明を聞き「今まで勤務をしていて、うれしかったこととは何か?」「大変だと思ったこととは何か?」等のさまざまな質問が飛び交った。藤野2空曹がその質問に回答すると、とても真剣な表情で目を光らせて聞いていた。自衛隊埼玉地方協力本部は今後もこのような機会に積極的に参加し、地域住民の方々への理解はもろろのこと、この会に参加した生徒が将来の職業選択において自衛隊を一つの進路として考えてもらえるよう、より一層の広報活動に尽力していく。

